



Title	東亞の經濟を論ずる外國人學者評論家調
Author(s)	池田, 善長
Description	資料
Citation	北海道帝國大學法經會法經會論叢, 8, 296-306
Issue Date	1940-03
Doc URL	<a href="https://hdl.handle.net/2115/10686">https://hdl.handle.net/2115/10686</a>
Type	departmental bulletin paper
File Information	8_p296-306.pdf



## 東亞の經濟を論ずる外國人學者評論家調

池 田 善 長

## 序

東亞の問題は今やあらゆる視野に於て研究せられて居る。其の必要に迫られて居るのである。斯くて政治上の問題外交上の問題に限らずあらゆる文化科學の所産と自然科學の成果は競つて東亞といふ地域を對象として其の中に生起する諸現象の分析に鮮明に役立たんことに努めて居る。併し乍ら之等の諸研究も究極に於て東亞の持つ地域的な特殊性及び東亞の有する歴史的な性格を理解すること無しには其の全體を窺ふことを得ない。斯くて我々の東亞研究に於ける諸分野の出發は此の要求に即應すべく東亞に關する既往の諸資料、諸文献の蒐集といふことに求められる。現に多くの着實な研究機關は此の點に多大の時間と努力を惜むことなく其の完備に腐心して居る。第二段の手順は之等の

集成である。此處に於て夫々の専門的智識が動員される。斯かる二段の前提が整つてはじめて夫等の資料の上に立つ具體的な諸問題の検討と分析が始められる。

扱て現實の東亞研究の段階を見るに假令個々の論文に於て既に綜合せられた見解が見られ様とも、一般的には未だ所謂第一段乃至第二段の過程にあると考へられる。斯くて一見極めて非能率的な仕事であるが我々の組織的な東亞研究は多くの努力と時間が資料の蒐集と集成に傾けられて居るのである。

具體的には地域的に且つ事項別にして諸資料の整理或は文献のリストを作成する等の操作が行はれる。更に進んでは之等資料の價值判斷が内容の検討に依つて行はれる。之等は總て夫々の部門に於ける専門家の手に依つて行はれることは勿論である。

斯かる研究の段階にあつて我々の最も知らねばなら

ぬ事柄は既往の若くは新らしい資料を提供した専門家に如何なる人が居るかといふことである。此の事は如何なる研究機關が存在するかを知らねばならぬと同じ意味に於て同じ問題の研究に従ふ者として知らねばならぬ事柄である。

東亞の問題に關心を持ち之等の問題の調査に若くは研究に従事する學者・評論家は邦人を除いても恐らく八、九百の多きに達するであらう。之等の總てを知ることとは恐らく不可能であらう。斯くて我々は之等の中經濟學若しくは經濟事情に關する専門家或は評論家といつた者を収録した。収録の範圍を斯様に限定しても尙ほ其の全部を網羅することは出来ない。収録に際しては大體次の方針をとつた。

一、國籍の別なく各國人を對象とする。

二、經濟學者のみならず經濟事情の研究者若くは調査家乃至評論家も其の對象とする。

三、主として最近數ヶ年間に發表せる論文に就き調査せること。従つて古い學者は特殊の者以外多くを含まぬこと。

四、分類はアルファベット順によつたこと。

五、説明は簡單に過ぎるものが多いが之等は詳細な

調査が困難であることに依る。

六、大體著名な者は収録し得たと考へるが本稿はもと／＼編者の研究に必要な手段として時折収録した手控ノートを中心に二、三の参考書について行つたものであるため若干の記載洩れを保し難い。

X X X

今後日本の東亞に對する地歩が高まるにつれ益々東亞の研究は其の必要を増し科學の總動員が要請せられるであらう。政治に外交に經濟に教育にあらゆる文化科學は、地質に動物に植物にあらゆる自然科学の分野と共に協力が行はれ新しい日本の文化を培ふ動力とならう。文献自體の紹介が必要とせられると同じ意味に於て専門家の紹介も此の場合必要である。此の意味で本稿が多少でも利用せらるゝことあらば幸甚の至りである。尙ほ極東及び日本に關する外國人評論家の便覽表はタイムス出版社國際パンフレット通信部にて作成せられて居るから若し經濟に限らず他の政治、外交其の他一般について知る必要がある場合は之に就て見らるゝ便宜あることを附記する。

昭和十四年十二月

編者

### 東亞の經濟を論ずる外國人 學者評論家調

#### A

アスコリ Nestor Ascoli

ブラジル人。サンパウロ州立大學法科卒業後辯護士となる。

リオ州議員時代日本移民の誘致を最初に唱導せり。著書「O Japão no Brasil」等あり。親日系。

アルシヤトボー Léon Archimbaud

佛蘭西人。法學博士にして辯護士。印度支那及び極東問題特に經濟並びに財政問題を研究し各種の雜誌に寄稿す。

アルバーツ Allen diehl Albert

米國人。社會學者にして社會施設に關する研究家であり都市計畫の専門家である。"Encyclopaedia Britannica"の"World's Fair Architecture"の執筆者。

アルメイダ Dorival de Almeida

ブラジル人。農業の専門技師。

アレキサンダー Wallace M. Alexander

米國人。親日系にして一九二四年排日的な移民法の改正に盡力す。American Japanese Relations Committeeの會長たり。

アレキサンブロン B. Alexandrov

ソ聯人。「日本に於ける労働運動」其他極東に關する論文

多し。

アレン G. C. Allen

英國人。リバープール大學經濟學教授。東洋の經濟問題を研究す。

アワリッソ Y. Avallin

ソ聯人。「滿洲に於ける戦争準備」(Weltwirtschaft und Weltpolitik, 1934, 6)等の論文あり。

アンガム Henry F. Angus

加拿大人。經濟學者。著書 "The Problem of Peaceful Change in the Pacific Area" あり。

アーノルド Julian Arnold

"China Commercial and Industrial Handbook, 1932," 著す。

アンドーソン Adelaide Mary Anderson

"Humanity and Labour in China, 1928, London" の著者  
アルント P. Arndt

獨人。"Der Arbeitslohn in China, 1937" の著者。

アンペリン De Kat Angelino

和蘭人。植民學者。"Statkundig Beleid en Bestuurszorg in Nederlandsch-Indië, 1931" 及び "Colonial Policy-2 vols 1931" を著す。

#### B

ビゲロウ Poulney Bigelow

米國人。植民學者にして多くの著書あり。親日系。著書に

“Japan and Her Colonies” 等。

ビソン T. A. Bisson

米國人。主として日支問題を中心とする極東問題評論家として著名。

ブラッター Herbert M. Brater

米國人。國際通貨問題の權威。東洋問題の研究者。

ブリッソーマイエト Briaud-Demille

佛國人。辯護士。經濟、貿易、植民地問題を研究す。

ブロンク Charles Bronne

佛國人。新聞記者。ペンネートを George Curtis。政治經濟上から極東問題を論ず。

ブソート Charles Austin Beard

米國人。大學教授。都市政策の權威。

バック J. Lossing Buck

米國人。支那農業經濟に關する多くの論著あり。南京大學金陵大學に講師たり。實地調査の結果は “Chinese Farm Economy, 1930” として發表せらる。其他 “Farm ownership and tenancy in china, 1927” “Utilization of Land in China, 1937” 等あり。

バーン H. F. Bain

“Ores and Industry in the Far East, 1933” の著者。

バーカー A. F. Barker

“The Textile Industries of China: their Present Position and Future Possibilities, 1934” の著者。

## C

カー Harry Carr

米國人。新聞記者として極東問題に關する記事を執筆。一九三六年没。

カーチス Lismet Curtis

英國人。オックスフォード大學植民史講師。極東關係の著書に “Capital Question of China, 1932” あり。

カタラーノ Michele Catalano

伊太利人。極東の經濟問題を研究する經濟學者。

コスタ Augusto da Costa

ポルトガル人。社會問題を研究し日本に於ける夫れを論じたる論文あり。官吏。

コッポラ Francesco Coppola

伊太利人。社會學者。大學教授たりしことあり。東洋問題を論ず。

コンロリー Violet Conolly

英國人。極東及びソ連の經濟を研究し論著多し。

コミッソ Giovanni Comisso

伊太利人。新聞記者として日本にも來朝、東洋の經濟事情を調査す。

チアオ C. M. Chiao

ソツコ教授と共に Chinese economic Journal, March 1928 に注目する論文 “The composition and growth of rural populations in China” を執筆せん。

コンドリーフ J. B. Condoliffe  
 “China today economic, Boston, 1932” の著者。人口問題  
 を研究シロース Sir Charles Close  
 “A brief review of the present population situation in  
 south and east Asia” (Population vol 1 No. 1) の執筆者。  
 クライク G. Clark  
 “Economic Rivalries in China, 1932, New Haven,” “The  
 Balance Sheets of Imperialism, Facts and Figures on Colo-  
 nies, 1936” の著者。  
 キャンベル P. C. Campbell  
 “Chinese Coolie Emigration to Countries within the Bri-  
 tish Empire, 1925” の著者。  
 クール Arthur Braddan Coole  
 經濟史家。“Coins in China's History, 1936 (Student Work  
 Department of the Tientsin Hui Wen Academy)” を著は  
 す。  
 カートル W. J. Cator  
 英國人。“The Economic Position of the Chinese in the  
 Netherlands Indies, 1936” を著はす。

D

ドルフマン Ben Dorfman  
 米國人。リットン報告書附屬書第三編を執筆す。リットン  
 經濟委員會顧問。加州大學其他各大學の經濟學教授。  
 デインゲル Dingle

“Far Eastern Products Manual, 1921” の著者。  
 ドールセン J. H. Dolsen  
 “The Awakening of China, 1926” の著者。  
 ダンベール Fr. C. Danvers  
 植民事情を研究 “The Portuguese in India, 2vols. 1894”  
 の著者。

E

エコンヌエ M. Economu  
 ルーマニア人。新聞記者として經濟問題を擔當。親日系。  
 エックハルト Thes. Eckhart  
 獨逸人。チヤイナライオンスト誌主筆。  
 エリストン Herbert B. Elliston  
 英國人。新聞記者として上海に駐在。南京政府囑託として  
 經濟情報局刊行物を編輯。現在クリスチャン・サイエンス・  
 モニター紙經濟部長。  
 エルドリッジ Francis Reed Eldridge  
 米國人。商務省通商局長。主著 “Trading with Asia, 19-  
 21” “Oriental Trade Method, 1923” 等あり。親日系。

F

フィールド Frederick V. Field  
 米國人。ハーヴァード大學に於て經濟學を修め太平洋問題  
 調査會より經濟問題研究のため東洋に派遣せらる。著書に  
 “Economic Handbook of the Far East”, “The China Con-  
 sortium” 等あり。

フリード Dr. Louis Franklin Freed

南阿人。極東の經濟問題を研究す。

フォークネット Sir Charles Fawcett

“The English Factories in India, 1936”を著す。

ミアンリー Miriam S. Parley

米國人。“America's Stake in the Far East, 1936”の著者

### G

グネス Dr. Marquès Guédes

ポルトガル人。辯護士。極東に於ける植民地問題を研究す

大藏大臣たりしことあり。

ゴブレー Y. M. Goblet

佛國人。東洋問題を政治及經濟地理的に研究す。著書に

“Le crepuscule des traités, 1934”あり

ガーヴィン J. L. Garvin

英國人。新聞記者。大英百科辭典編輯者。税制問題の權威

法學博士。

グランクル Auguste Grandel

佛國人。“Le développement économique de l'Indochine

française, 1936”を著す。

### H

ハンタム Hannatan

ソ聯人。「日本の農村」其他の論文多し。

ハンウェル Norman Hanwell

米國人。ミネソタ大學に於て國際問題を講ず。支那農村の

實證的研究のため數年間各地に踏査を行ふ。

ハイト Harrison V. Hoyt

米國人。オレゴン州立大學經濟學教授。極東問題の評論あり。

ホッジス Charles Hodges

米國人。極東の經濟研究に従事しニューヨーク大學東洋政

治經濟學部教授。著書に“*The Background of International*

*Relations*”等あり。

何思源 (仙橙) Ho-Ssu-yuan (Hsien-cha)

中國人。廣東中山大學教授。米獨佛に留學。「支那を中心

としてみた國際經濟政策」等の著述あり。

何炳賢 Ha Ping-tien

中國人。實業部國際貿易局長。米國に留學。「中國對外貿

易」等の著あり。

何廉 Ho Lien (Dr. Franklin Lien Ho)

中國人。統計學者。國民政府行政院政務處長。米國に留學

黃朝琴 Hang Chao-chin

中國人。桑港總領事。日米に留學。「中華民族の海外發展」

「日本の經濟危機」等の著あり。

ハバード G. E. Hubbard

“*Eastern Industrialization and its Effect on the West, 19-*

*35*”の著者。

### K

キーンシング Felix Maxwell Keesing

英國人。ハワイ大學社會學科部長。文學博士。太平洋問題調査會調査部長として東洋問題研究に従事。著書『Dependencies and Native People of the Pacific, 1931』、『Education in Pacific Countries, 1937』等。

クウシネン Kiginen

ソ聯人。日本帝國主義に關する論文あり。極東問題を専門とす。

ニツカリボツカー Hubert Renfro Knickerbocker

米國人。ジャーナリストとして極東方面の記事を擔當。

L

リヒトハルト H. Lightart

オランダ人。南洋方面の經濟事情に通ずる實業家。

リヨートル Pierre Lyautey

佛國人。東洋特に日滿支の政治經濟を研究し著書としては『Le Drame Orientale』、『L'Empire Colonial Français』、『China on Japan』等あり。

ロレンソ Joao Lourenço

ブラジル人。日本の財政經濟及び移民問題に關する論評多し。新聞記者。

ロツジ Carlo Lozzi

伊太利人。極東の經濟研究家。

李權時(雨生) Li Chuan-shih (Yeh-sheng)

中國人。米國に留學。復旦大學商科大學、光華大學、大夏大學等に經濟學を講じ後復旦大學商學院長。著書に『支那經

濟問題摘要』、『民生主義概要』、『中日經濟關係』等の論著あり。

ラスカー Bruno Lasker

『Problem of the Pacific, 1931』の著書あり。

リー Lee

『Economic history of China, 1921, New York』を著はす。

ロイ R. Y. Lo

米國人。主著『China's Revolution from the Inside, 1930』あり。

リュエー Di K. Lieu

『The Growth and Industrialization of Shanghai, 1936 (China Institute of Economic and Statistical Research)』を著はす。

ラム Jefferson D. H. Lamb

『The Development of the Agrarian Movement and Agrarian Legislation in China, 1934』の著者。

ルロイ James A. Le Roy

『Philippine Life in Town and Country, New York, 1905』を著はす。

M

マイオ Guerra Maio

ポルトガル人。新聞記者として東洋の社會事情を研究。

マクレイノルズ George F. McReynolds

米國人。メーン大學に極東史を講ず、著書に『Japan in

American Public Opinion, 1937" 著者。

マリーノ Leo Magiano

伊太利人。植民地政治經濟に關する論文多く伊太利植民省  
刊行誌の極東記事を擔當する。

ムッチョリ Marcello Mucchioli

伊太利人。伊太利百科全書の日本關係部門を擔當。政治經  
濟學者。

マレーン Albert Maybon

佛國人。著書は日本及支那に關するもの多く東亞經濟事情  
に明るし。主著は "La Japon d'Anjoundhni, 1925" "L'In-  
dochine Française, 1931" 等なり。

マエロ Vieira de Mello

ブラジル人。新聞記者。

モール Anton Mohr

諸威人。オスロー大學教授。哲學博士。經濟學者。著書に  
次のものあり。"The Bagdad Railway, 1917", "The Oil War,  
1925", "The Persian Gulf, 1931"

モールトン Harold Glenn Moulton

米國人。シカゴ大學經濟校教授たりしことあり。日本に關  
する著書に "Japan, An Economic and Financial Appraisal,  
1931" あり。

モーレント Ferdinand Maurette

佛國人。經濟地理學を研究し佛國參謀本部經濟部委員、植  
民省次官、ジュネーブ國際勞動事務局調査部長等を歴任す。

東亞の經濟を論ずる外國人學者評論家調

ワल्ली Walter Malory

"China, land and people, New York, 1926" の著者。

N

ノートン Henry Kittredge Norton

米國人。北京清華大學經濟學講師。著書に "The Far Ea-  
stern Republic of Siberia, 1923", "China and the Pow-  
ers, 1927" 等あり。

ニール E. P. Neale

"Guide to New Zealand Official Statistics, 1938, Auckland  
Univ. College Text, No. 2)" の著者。

O

オーチャード John E. Orchard

米國人。コロンビヤ大學經濟學部教授。曾て同大學社會科  
學調査會より日本に派遣せられ經濟事情の研究をす。主著

"Japan's Economic Position, 1930"

オーキーマン T. W. Overlach

"Foreign Financial Control in China, 1919" の著者。

P

パルンボ Antonio Palermo

伊太利人。新聞記者。植民問題、太平洋問題の論評に當る  
ペリス Guido Ferris

伊太利人。農業を研究し國際農事協會に勤務。

ポボン Konstantine Popov

ソ聯人。日本經濟に關する研究多し。

プレットネル Pletern

ソ聯人。モスコフ東洋學院教授。日本農村の研究者。

パンテイット Y. S. Pandit

“India Balance of Indebtedness 1893—1913, 1937”の著者。

パーキンソン C. N. Parkinson

英國人。“Trade in the Eastern Seas : 1793—1813, Cambridge, 1937”の著者。

R

ルブール A. Rebol

佛國人。經濟雜誌主筆。

リーマー Charles Frederick Remer

米國人。ミンガン大學經濟學教授。極東特に支那經濟通。著書に“The Foreign Trade of China, 1926”, “American Investment in China, 1929”, “Foreign Investment in China, 1933”, “A Study of Chinese Boycotts, 1933” “Readings in economics for China, 1926”等あり。

ロゼン M. L. Rozen

ソ聯人。

ロシエ Edm Rossier

瑞西人。ローザンヌ大學政治學教授。政治經濟學者にして極東問題を論評せるもの多し。

ロックヒル W. W. Rockhill

“An inquiry into the population of China” (The annual

report of the Board of regents of the Smithsonian institute 1903—1904)の論文あり。

ライクマン E. Raikhman

“The Economic Development of the Soviet Far East, 1936”を著はす。

レバスキー A. Revusky

“Jews in Palestine, 1936”の著者。

S

シェベルス Dr. Habsjurius Schepers

獨逸人。ゲッティンゲン大學助手。日本漁業の經濟地理學的研究をなす。

シュルツェ Dr. Ernst Schultze

獨逸人。ライプツヒ高商に於て經濟學を講ず。著書に“Japan Als Weltindustriemacht, 1935”あり。

スクリャーロフ D. Skriarov

ソ聯人。「滿洲に於ける日本の經濟政策」なる著書あり。

スタイナー Jesse F. Steiner

米國人。ワシントン大學社會學科教授。極東の社會事情通

ストロング Anna Louise Strong

米國人。婦人新聞記者。社會事業に活躍。

スペクティール M. Spektator

ソ聯人。日本の經濟狀態を研究。

シュトレル W. Schüller

獨逸人。“Das Bevölkerungsproblem in China” (Ostasiati-

sche Rundschau 2, Jahrgang Nummer 20) の論文あり。

スミス A. H. Smith

佛國人。“La Vie des Paysans Chinois, 1930, Paris” の著者。

スミス W. Millar Smith

英國人。“The Marketing of Australian and New Zealand Primary Products, 1936” を著はず。

スミス W. D. Smith

“Geology and Mineral Resources of the Philippine Island, 1924” の著者

セワード G. F. Seward

米國人。“Chinese Immigration, in its Social and Economic Aspects, Newyork, 1881” の著あり。

サマント D. R. Samant

M. A. Kulky との共著 “Organisation and Finance of Industries in India, 1937” あり。

## T

トムソン Virginia Thompson

米國人。著書に “French Indo-China, 1937” あり。行政、文化、産業一般を調査す。

トイーネー Richard H. Tawney

英國人。ロンドン大學經濟學部教授。太平洋問題調査會の依頼を受け支那經濟の研究に従事。「支那の農業と工業」を著はず。他に “The Acquisitive Society” 等の著書あり。

東亞の經濟を論ずる外國人學者評論家調

テイヤー J. B. Taylor

“Farm and factory in China, 1932” の著書あり。

トスベン Ernst Tospan

獨逸人。“Finanzwirtschaft in Niederländisch-Indien, 1916” の著者。

## U

アトリー Freda Utley

英國人。婦人新聞記者。ロンドン大學經濟學部卒業後綿絲業を研究し「東洋に於ける綿業」を刊行す。

## W

ウイツフオーゲル Karl August Wittfogel

獨逸人。社會學者にして哲學、美學、地理學に關する論文多く一九三五年來朝日本に於ける土地問題を研究す。現在コロンビア大學に招かれ支那社會經濟史の研究に従事し多數の著書論文あり。主論文として次のものあり。

“Wirtschaft und Gesellschaft Chinas, 1931” “Theorie der orientalischen Gesellschaft. Zeitschrift für Sozialforschung, herausgegeben im Auftrag des Instituts für Sozialforschung Jahrg VII 1938 Heft 1<sup>23</sup>”, “The Foundations and Stages of the Chinese Economic History. Zeitschrift für Sozialforschung Jahrg IV 1935 Hef 1”, “Die natürlichen Ursachen der Wirtschaftsgeschichte, Archiv für Sozialwissenschaft und Sozialpolitik Bd. 67 1932”, “New Light on Chinese Society, 1938” 等あり。

ヴァイルツング Dr. Gieselher Wirging

獨逸人。ミュンヘン大學にて社會學及び經濟學を兼修し學位をとる。新聞記者として東洋問題に關心を持ち諸論文あり

ウツズ John Cyrus Woods

米國人。大正十二年關東大震災當時駐日大使たり。

ワイルズ Harry Emerson Wildes

米國人。社會問題を研究し著書に『Social Current in Japan, 1927』、『Japan in Crisis, 1932』等あり。慶大經濟學及社會學教授たりしことあり。

王雨桐 Wang Yu-tang

中國人。日本に留學。滬江大學商學院教授たりしことあり著書に「中國の對日債務問題」、「最近の東北經濟と日本」等あり。現在は金城銀行總經理處に勤務。

吳兆璋 Wu Chao Chang

中國人。『Trade in Bristles, 1938』の論文あり。

王炳勳 Wang Ping Hsun

中國人。『Agricultural Resources of China and Japan with a Comparative Survey—, 1938』の論文あり。

ワットソン Ernest Watson

『The Principal Articles of Chinese Commerce, Import & Export, 1928』の著者。

ワイルヘルム Richard Wilhelm

『Chinesische Wirtschaftspsychologie, 1930, Leipzig』、『Bevolkerungsprobleme in China, (Sinica Dez. 1929)』等の論文

あり。

ワイルニコックス W. F. Wilcox

『A Westerner's effort to estimate the population of China and its increase since 1650. La Haye 1930』の著者。

ワグナー W. Wagner

獨逸人。『Die Chinesische Landwirtschaft, 1926』

ワイール P. Weale

英國人。『Why China Sees Red, 1926, London』を著す。

ウィリアム M. William

主著に『Sun Yat-Sen Versus Communism, 1932, Baltimore』あり。

ライト Stanley F. Wright

『China's Struggle for Tariff Autonomy : 1843—1938, 1938』の著者

ウッド G. L. Wood

A. A. Fitzgerald との共著『Problems of Industrial Administration in Australia, 1938』あり。

ワイールズニシキート Kurt Wiersbitzky

『Südostasien, 1938』の著者。

Y

ヤング Simon Yang

『A study of the standard of living of working families in Shanghai, 1931』の著書あり。